

# 地域コミュニティ形成事業

若者座談会、講演会・ワークショップを開催しました！

町は、いつまでも地域や集落で暮らし続けたいと願う住民が、そこでの生活を維持できる仕組みづくりを考え、実践する「地域コミュニティ形成事業」という集落支援対策の取り組みを進めています。今回、さまざまな世代が抱える課題を知り、幌延の未来について考えるため、座談会と講演会を開催しました。

## ○10/19(土)：若者座談会

若者が抱えている将来への不安や課題、町への期待や要望などを語り合う座談会を開催。会場では率直な意見が飛び交いました。

幌延の印象について、地元出身者は「お店が早く閉まる」「若者の遊び場が少ない」など不便を感じる一方、転入・移住者は「自然豊か」「屋外スポーツに適した環境」など前向きな意見が多くありました。

「幌延の未来に向けて」に対する意見は、時代に合う酪農業経営形態や産業の6次化、語らい・仲間づくりの場の設置、お土産品開発、住宅整備推進など移住定住・人口減少対策への要望が多く出ました。



区分	地元出身者	転入・移住者
幌延の良いところ	知り合いと常に挨拶を交わせる、道路の除雪が行き届いている	自然豊か、道路に信号が少なく屋外スポーツに適した環境、イベント情報を得やすい、ボランティア精神が醸成される、よそ者扱いされない
幌延の困る・不便なところ	都会からUターンすると不便を感じる、お店が早く閉まる（コンビニ、飲食店など）、欲しいものがすぐ手に入らない、習い事ができない、子供が少ない、若者の遊び場がない	どこへ出かけるにも距離が遠い、幌延の認知度が低い
幌延の未来に向けての期待・要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業：乳牛（子牛）育成施設の整備、地域資源の商品化・加工施設整備、酪農業の分業制推進、幌延牛乳の生産、農家・商店主の増加対策</li> <li>地域生活：冬の子供イベント「雪ん子まつり」のような自主的イベントの継続、義務的ではなく仲良しから自然に支え合う仕組みづくり</li> <li>観光：トナカイのさらなるアピール</li> <li>人口増：大胆な子育て支援策による人口増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業：豊富な肉資源を生かした「肉のまち化推進」、他団体にはない財源を6次産業化へ投資する、お土産品の開発、地元産バターによる菓子製品開発</li> <li>地域生活：思いを語り合って仲間づくりができる場の設置、住民アイデアを具体化する支援</li> <li>人口増：人口増対策の積極推進、世帯用住宅の整備、豊富温泉湯治客の雇用と住環境整備</li> </ul>

## ○10/20(日)：講演会・ワークショップ

NPO法人ひろしまね理事長の安藤周治氏による講演会『「ここで暮らし続けたい」の思いをつなぐ～地域から、暮らしを考えつくる営みを～』が開かれ、来場者は熱心に安藤氏の話に聞き入りました。

安藤氏は、自分たちが住む地域を胸を張って誇れるようになるために、①地域の「いいところ探し」で魅力を見つけ、それを貨幣価値換算する ②地域に自分なりの値段をつける「みなし家計簿」を作り、家族や友人と交換日記のようにやり取りする、ことが重要であると強調。「地域の良いところを探し好きになることは素敵なこと。地域の魅力を再確認し、魅力の見える化をしてください」と提案してくださいました。

こうした身の回りの資源に目を向けることは、現状の課題を把握し、望ましい地域の未来を考えるきっかけになるのかもしれませんが、「その資源を使って何かできないか」と考えることは、町を大きく前進させる未来の種になる可能性を秘めています。皆さんも「幌延・みなし家計簿運動」をしてみませんか？

その後のワークショップでは、①講演会で感じたこと ②今取り組んでいることとその課題 ③これからやってみたいこと、を話し合い、会場全体で発表しました。「昔はよかったね！」を再現したサロンを開催したいという意見や、「生活の足が無くなりゴミ捨ても困っている」という課題も共有しました。



お問い合わせ先：企画政策課 企画政策グループ 電話 5-1114 告知端末機 5-8814